

○タイトル **私の新製品＝画像と文章の相互作用＋視線の報酬**

○実践者名 河崎 睦 mutsumik@mx6.ttcn.ne.jp

○所属 神奈川県綾瀬市立土棚小学校

○学年・教科 小学校2年生 国語

○総時間数 8時間

○ねらい

- ・自分の考えた『新製品』について、その機能を説明する作文を書けることができる。
- ・デジタルカメラの操作に慣れる。
- ・画像処理の基本的な技術（レイヤー）を修得する。

○この実践、ここがウリ

自分で考えたことを作文に書き、つぎに映像化することによって、子ども達のイメージの広がりが期待できる。



九九かん字早おぼえマシーン

○活動の流れ

1. 私の新製品のアイデアを考える
2. ラフスケッチをする
3. 新製品の紹介をする作文を書く
4. 新製品の素材となる写真をとる
5. レイヤーをかけて、その上に絵を書き込んでいく
6. 印刷をして、発表資料をつくる
7. プロジェクタで映像をうつしながら発表会をする



お金マシーン

○学習環境

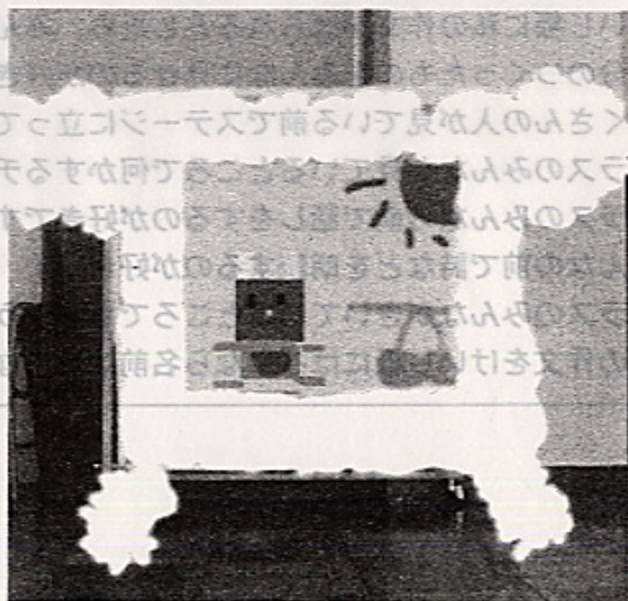
デジタルカメラ2台、パソコン12台、

○利用するソフトウェア名とその機能

フォトショップエレメンツのレイヤー機能

○実践者の声

小学校2年生で、どの程度の活動ができるかと考えていた。しかし、子どもたちは、それほどのストレスがなく取り組んでくれた。学校だけではなく、家庭にデジカメを持ち帰り、様々な素材になる写真をとってきた。それにレイヤーをかぶせると、ぐいぐいとかき込んでいく。おそらく、高学年やそれよりも大きな生徒さんでは、こわくてできないのではないかと考えた。



せんたくかわかしマシーン

<資料>

「めだちの手段の尺度」

<ユーモア>

- ギャグを言います
- おもしろいことを言います
- みんなをわらわせます
- ガッツポーズをします
- おもしろかったマンガの話しをします

<演技性・新奇性>

- 注目を集めるためならばなんでもします
- みんなの注目を集めるために何をしたらいいかいつも考えています
- 注目を集めているひとのまねをします
- わざと大きな声でしゃべります



なんでもがさ

「挙手による意見表明の尺度」

- 答えがわかっているあまり手をあげません (反転尺度)
- 授業では答えがわかる時は必ず手をあげます
- 学級会ではよく意見をいう方です
- みんなの前で意見をいうのはにがてです (反転尺度)
- 何か言いたいことがあるとはっきり言う方です
- 意見をいわなければならないのにだまっていることがあります (反転尺度)

「学習場面でのパフォーマンスの尺度」

- 自分の活躍ぶりをクラスみんなに見てもらいたいです
- クラスみんなが注目している中で何かしてみたいです
- けいじ板に私の作文がはられるとしたら、みんなに私の作品だとわかってもらいたいです
- 自分のつくったものをみんなに見せるのが好きです
- たくさんの人が見ている前でステージに立ってみたいです
- クラスみんなが見ているところで何かするチャンスがあればそれをのがしません
- クラスみんなの前で話しをするのが好きです
- みんなの前で詩などを朗読するのが好きです
- クラスみんながきいているところで歌を歌うのが好きです
- 私の作文をけいじ板にはるのなら名前はださないでほしいです (反転尺度)



しつけかんたん犬ようマシーン